

HARLEM

April 2001
04

SPIT'EM OUT! "It's absolutely RAW"

-This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene...-

CONTENTS OF APRIL 2001

SPECIAL INTERVIEW "TOP SMOKERS"	EVENTS SCHEDULE - April to May 2001	RECOMMENDED EVENTS - Event Information	EVENT REPORT -01 - '01.02.27 Lucky Strike Presents Red Zone Special - '01.03.03 The Tag Presents: No Doubt Hinamatsuri Special - '01.03.06 Tommy Boy 20th Anniversary Red Zone Special	ROCK THE CITY - Show & Prove Edited by Yas 5 (U.B.G.)	DISCS FILE - Selected by HomeBass Records MINAMIDAI TU-SHIN - Minamidai TOP SMOKER NO SUISINBO BANZAI - Top Smoker SYOGYO-MUJO-NO-HIBIKI-ARI - Maki the Magic	MO' INFO	COMPLETE THE GUNTEZ RECORDS GUNCO-019 THE SIGN OF PROOF - Takeshi Hasegawa
page 01	page 02	page 03	page 04	page 05	page 06	page 07	page 08

Special Interview

TOP SMOKERS

4/26に3周年を迎えるREGGAEの代表格イベント"TOP SMOKER"の創始者でありセレクトターでもある"TOP SMOKERS (SKAR FACE / THUNDER KILLA)".HIP HOP箱 HARLEMにおいて完全にREGGAEイベントを定着させた実績は、シーンを見据えてきた者だけにできるホンモノのスキルとセンスの所以だろう。本誌巻頭インタビュー、初REGGAE CREW登場です。

●TOP SMOKERSの結成と名前の由来は？

THUNDER KILLA (以下、T) : 名前の由来はね、当時TOP RANKAZがあって、そのパチものでTOP DRUNKERSがあって、もうひとパチものもいかなって。最近TOP DRUNKERSがあんまり名前を使わなくなってきたりして、TOP RANKAZも使わないみたいだし、パチものだけが一番残っているという(笑)。

SKAR FACE (以下、S) : TOP SMOKERSという名前イベントを打つ時に、最初TOP RANKAZのZEBBRAやKEN-BOに電話して"TOP SMOKERSやるんだけど..."というOKはもらったよね。さらにTOP DRUNKERSのMAKI君とMUMMY-Dにも連絡はしました。

T : 酔っぱらい団体がTOP DRUNKERSなら負けないぞ！という単なる語呂合わせだからあんまり深い意味はないです(笑)。

S : HI-GRADEのTOPの部分の焚いた時みたいないい感じの空間を演出出来ればいいなという意味は含まれてたかな。

T : 完全に定着しましたよね。

S : うん。TOP SMOKERSって名前前は認知されて来ているなと思う。

T : 当時TOP SMOKERを始める前は、HARLEMにいるんなREGGAEのクルーからオファーがあったって話を聞いていたんですよ。でも当時のHARLEMとしてはそういうクルーのカラーが出来てハードコアなものをやるのは何とも不安だったっていうのがあったみたいで。だったらもっとクルー色を無くしたものでどうかなっていうことを話しているうちに偶然出来たっていうのが一番近いかな。

S : だから割とキャッチーなものとか取っかかりやすい選曲をある程度意識してやっていたし、底上げというかシーンの活性化みたいなものが出来ればいいのなっていうのが、始めた当時の狙いだった。

●REGGAEにはまったキッカケは？

T : 遊んだりするようになった年頃からクラブが出来だして、もちろん中学時代にディスコ行ったりはあったけど、そんなにおもしろい時代じゃなかったし、はまることはなかったんですけど、クラブが出来だしてから東京でよく遊んで、クラブミュージックと接する中でREGGAEっていう選択肢があって。まあもともと高校時代からボブ・マーリーとかは聴いていたんだけど。そこでRANKIN TAXIとかのLIVEに通って行くようになってからホントにはまった感じですね。当時RANKIN TAXIが"ジャマイカ行かなきゃわからない"みたいな歌を歌っていたのを聴いて、間に受けて行ってしまったし。そしたら"あんなほどな"っていう所から今まで来ちゃったなって感じですね。

S : 当時出入りしていたクラブはHIP HOP系でHIP HOPが好きで聴いていたんだけど、あるきっかけでREGGAEを聴き始めた時に何となくREGGAEの持っているVIBESの強さというか、人間のエネルギーみたいなものを感じたので。聴いていけば聴いていけばHIP HOPよりも生活に根付いているREGGAEの方が割と自分の体質に合ってるかなという所でどんどんREGGAEにハマっていったんだよね。

●REGGAEは横浜など地域によって独特のシー

ンを持っていますが、HARLEMでプレイすることに少し意識していることはありますか？

T : TOP SMOKERに関してはHARLEMならではの楽しんでもらった方がいいかな、と。SEXYなダンスや東京や関東近辺のエンターテイナーも出て、割と楽しめるというのを優先にした方向で考えています。そういうREGGAE全体の地域差という意識はあまりないですね。それよりも次の企画、次誰呼ばばいいのかなってことの方が頭痛いし。

S : REGGAEの現場ってどうしてもキャバ的に小箱で営業をやっている所が多いと思うんですよ。その中でHARLEMは大箱だし、ましてやREGGAEをメインにやっている箱ではないということ踏まえて、お客さんに歩み寄った選曲を心がけています。そのコアな事をやる現場とHARLEMでやる内容は意識して変えるようにしてますね。シーン自体みるとどうなんでしょう？REGGAEはよく夏前になると"今年は来る"って言われていて、業界もそういう風に騒いでいるようにだけど、僕らがシーンに10年くらい携わっている中で、爆発的にブレイクした時期もそんなに目立ってあるわけではないですよ。だからといってお客さんが全くないという訳ではないので、まだ小さいマーケットではあるけれどもその浮き沈みの波がない分、色々な可能性があるんじゃないかなって気がしますね。

●4月でTOP SMOKERも3周年を迎えますが、今後の展望は？

S : もう3年経ったのかなっていうのが一つと、東京のREGGAEシーン自体がなかなか今いい時期だし。

T : 横浜がどうだったという時代時期も過ぎたと思うし。歌い手側も、この前までは大阪で、逆に大阪じゃないとちょっとウケないとも言われていたのが、今は別に特に関東が劣っているという訳でもないし、東京のシーンがまだまだこれから伸びていく可能性が一番持っているんじゃないかなって自分的には思っているんですよ。TOP SMOKERはREGGAEがまだHARLEMでからない時期に始めて、みんなに聴いてもらいたいところからスタートしてから3年経って、今はみんなREGGAEをかけてるじゃないですか。HIP HOPの日だって結構ちゃんとかけてくれているし、そういう時間をもうけてくれているなら、TOP SMOKERは最初のコンセプトだった"わかりやすさ"のみというのもちょっと変更していいんじゃないかなって思う。もうちょっと違う見せ方が出来たらって思っているんですよ。

S : その中で尊敬できるアーティストや、これから出ていくであろうアーティストをどんどんみんなに紹介できればなというのがありますね。日本のアーティストだけに限らずジャマイカやアメリカのアーティストも紹介していければなって思う。それくらいの規模はしていきたいですね。

T : 最終木曜日で3年間やらせてもらっていて、極端に言えば全然入らない日ってそんなにないし、木曜日って大変だと思うんですよ、次の日も仕事だろうし。そんな中いつもある程度来てくれるのは有り難いなって思うんですよ。だからそういうお客さんの為にもおもしろいアーティストをピックアップして少しでも変化を付けた形をこれからも意識していきたいというのが一番大きいですね。



●プロデュースワークについて

T : PAPA BONを今プロデュースさせてもらっていて、6月の末にメジャーからのリリースなんですけど、その辺を含めた上で、いい才能をみんなに紹介出来るようにTOP SMOKERをまたこれから違う方向に持っていければと思いますね。いい意味で利用させてもらって紹介の場として使わせてもらえればと思います。

S : 特にアーティストと話しているとTOP SMOKERでのステージは他の現場とはわけて考えてくれたり、TOP SMOKERだったらこういうステージング、この曲がいいというのをアーティストの方が意識して、

TOP SMOKERのお客さんにあわせてショーの構成を考えてきたりという現象が起きているので。

T : 何かTOP SMOKERというフィルターを通して一つアーティストにステージングを考えさせるいいきっかけになっているんじゃないかなという気はしますね。ダンスに関しては、思いのほかダンサーのみんなに対して登壇みたいになっているのがおもしろいかなって思う。

●プライベートの過ごし方は？

T : 趣味はプロレス観戦のみです。格闘技ファンは多いけどプロレスファンは少ないんですよ。格闘技はスポーツっぽくてイマイチ集中出来ない所があるんですけど、プロレスの持つうさん臭さとか、裏で話してるの？どっちなんだろう？と思いつつも立ち上がって怒鳴っている自分というのが好きなんです。新日が好きなんですけど、最近是对抗戦が多くて楽しくてしょうがないです(笑)。今一番の悩みは4月にロックダウンでジャマイカに行かないといけないうんですけど、その間に大きい興業が2つくらいあってそれを見逃すのが悔しくて悔しくて... (笑)。

S : 最近寂しい男ぶりを地で行っているの、割と家にもって... そんな話するようなことはないです(笑)。

●HIP HOPのDJやイベントに対してはどのように思いますか？

T : 参考になりますよ。REGGAEって本場のジャマイカもそうなんですけど、妙に新しい曲志向があるんですよ。だからエンターテイナーが出てきてもみんなが知っている曲をステージでパフォーマンスも全然ウケなくて、これはNEWリック、昨日書いたばかりだとか、今考えたNEWリックだと言うとそれが一番ウケたりするんですよ。

すごいNO.1ヒットよりもそっちがウケるって状態であって、どうしても僕みたいにREGGAEを長くやっているNEW TUNEがいいんじゃないかっていう志向があるので、HIP HOPのみんなが持っているのを見ると何年前のヒット曲で盛り上がるものとか音的に問題がないものは考えてちゃんとかけるじゃないですか。そういう点ですごく参考になるし、彼等が選んだ曲はジャマイカのDANCE CLASSICとはちょっと違う視点だったりするんですよ。だから聴いているとホント参考になる部分は多いですよ。

●始めた頃と比べてお客さんのノリの変化は？

S : 始めた時からはいぶ変わったような気はしますよね。僕らレベルでヒット曲と認識している曲のレスポンスの部分も返ってくるようになりまして、新曲をかけても返ってくるようになりました。昔はそれほどREGGAEに対して曲に反応しなかった中で手探りでかけてた部分はあるけど、今のお客さんは曲のことは知っているなどは思います。僕らの時代は割とREGGAEを聴いてる人はREGGAE、HIP HOPを聴いている人はHIP HOPっていう所があったけど、今のHARLEMに来てはいるお客さんの層はHIP HOPも聴くしREGGAEも聴くしという人が多いんじゃないかなって思う。それがジャマイカヒット以外の日本人の曲であったりしてもお客さんが口ずさんで歌っている姿とか見ますし、そういう意味では僕らが思っている以上にお客さんは曲を聴いているって感じがしますね。

T : 明らかにみんなの反応は違いますね。さっきの話に戻るけど、こっちもちょっと方向性を考えなくてはと思うのは、そういう所からですね。お客さんにREGGAEが浸透してきたならあんまり楽しいばかりじゃなくてももうちょっとコアなものを見せられるようになってきたりとか、また他の展開みたいのが出来ればと思います。

●4/26に開催されるTOP SMOKER 3rd ANNIVERSARYについて

S : 3年間続けてこられたのは、参加してくれたアーティスト、セレクトター、サポートしてくれたスタッフの人々、そして何よりもHARLEMに足を運んで来てくれるお客さんがいたからだと思う。その人達にリスペクトの気持ちを忘れずにブースに立ちたいと思っています。

T : とりあえず来いって感じでしょう(笑)。木曜日でですけどみんな来て下さいね。